

浜風のまち

佐賀関そぞろ歩き

第11回

竜馬も訪れた海上交通の要衝 寺に宿泊した記録

2010年
3月18日掲載

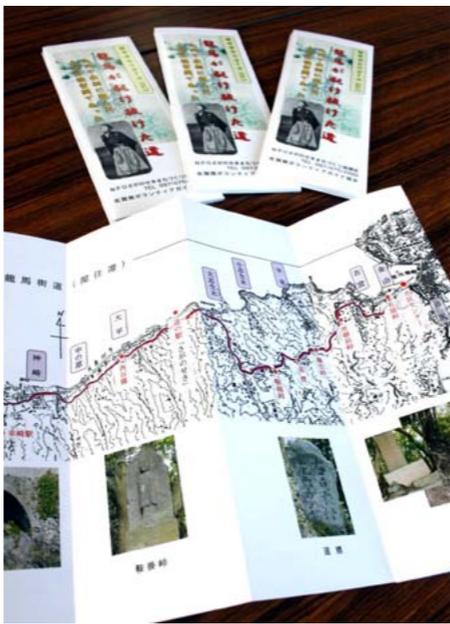
古くから海上交通の要衝として知られる大分市佐賀関。江戸時代には参勤船隊が日和を待つ港として使い、明治時代初期には貿易の中心として栄えた。

1864年には坂本竜馬や勝海舟が長崎へ向かう途中、第2長崎丸で入港。地元の竜馬ファンらは熱心に幕末の史実を掘り起こしている。佐賀関ボランティアガイド協会（越美智子代表）は竜馬が歩いた山道を「龍馬街道」と名付け、地図や道標を載せたリーフレット「龍馬が駆け抜けた道」を作った。

竜馬らが宿泊した徳応寺では、東光爾英（にえい）住職（55）が着物や模造刀をそろえ、「竜馬コーナー」を設けている。追っ手が多い竜馬は本名で泊まることはほとんどなかったが、当時の東光龍潭（りゅうたん）住職が佐賀関の出来事を記録した「日本人物誌」には、寺の宿泊者として竜馬の名前が同志とともに記されている。

卒業前に地元の歴史を知ろうと寺を訪れた佐賀関小学校6年生23人は、龍潭住職が描いた米国や英国の艦隊に興味津々。北尻祥子さん（12）は「竜馬と誕生日が同じなので歴史を少し知っていた。すごいことがたくさんあった佐賀関に生まれて良かった」と目を輝かせた。

（写真、文とも地域報道部・永富希望）



佐賀関ボランティア協会が作ったリーフレット「龍馬が駆け抜けた道」



「ここに坂本竜馬の名前が載っています」と東光爾英住職（右）が資料を見せると「本当だ!」「すごい!」と子どもたち

貝ボタンを発案 明治時代のエコ商品

2010年
3月26日掲載

サザエの缶詰で知られる大分市白木の太田缶詰には、創業者の太田美之吉（1868～1913年）がサザエの殻を利用して作った貝ボタンが残っている。

文明開化で人々が和服から洋服に着替えた1899年、美之吉はサザエを加工した後、捨てるだけだった殻からボタンを作ることを発案した。ドイツ人の技術者から学び、このエコ商品はたちまちヒット。地元秋の江地区の住民に新たな職を与え、輸出して外貨を稼いだという。

加工方法を後世に伝えようと、美之吉は工程をまとめた標本を作っている。7代目の太田寛泰社長（66）が「何度見ても飽きないですよ」と、黒い箱のふたをゆっくりと開けた。

1個の殻からボタンの形に20～30カ所くりぬき、糸を通す小さな穴を開ける。形を整え、磨いて完成だ。どの工程を見ても、緻密（ちみつ）で美しい。

美之吉が建てた工場、蔵、自宅は今も変わらず明治時代の趣を残している。壁、ガラス戸、扇風機など、ほとんどが当時のままだが古ぼけた様子はない。

標本を置く応接間だけは洋間だ。ぜんまい式掛け時計の音が響く。つやめく貝ボタンを時間を忘れて見入っていると、丸いテールを囲んで外国人と商談する美之吉がそこに居る気がした。

（写真、文とも地域報道部・永富希望）

太田缶詰の創業者太田美之吉

貝ボタンの標本を見せる
太田寛泰社長



穏やかな春の一日 磯の香りに誘われて

2010年
4月28日掲載

春の一日、穏やかな風が吹く大分市の佐賀関地域をゆっくり歩いてみた。午前10時。磯の香りに誘われて大平の海岸線を歩くと、春の風物詩「ヒジキのじゅうたん」が広がっていた。「雨が多い。1週間ぶりに干せるんで」と男性（70）。日焼けした手で一本一本を丁寧に並べていた。

正午の道の駅。バイクを止めて缶コーヒーを飲む男性、昼食中のサラリーマン。海を眺め、思い思いの時を過ごしている。

竜宮伝説、タコ断ち祈願、地区ごとに違う盆踊りの口説き…。半島を巡ると、海にちなんだ伝説や風習、珍しい漁法に出会う。地元の関心は薄れているが、調べるほどに歴史が分かり、面白い。ボランティアガイドの実崎巖さん（80）「佐賀関は、「機会がある限り、佐賀関の魅力を伝えたい」と目を輝かせた。

午後4時半の佐賀関漁港。ウミネコが飛び交い、漁師らがベンを囲む。堺正和さん（58）「白木は、双子の孫が春祭りの綿あめを手にして喜ぶ姿を見守っていた。

サイクリングロードの菜の花が揺れ、海面に夕日が映る。午後6時半、浜風のまちが赤く染まってく」。

（写真、文とも地域報道部・永富希望）



佐賀関漁港に住民の笑い声が響く



海岸に沿って広がる“ヒジキのじゅうたん”

■オオイトデジタルブックとは

オオイトデジタルブックは、大分合同新聞社と学校法人別府大学が、大分の文化振興の一助となることを願って立ち上げたインターネット活用プロジェクト「NAN-NAN（なんなん）」の一環です。

NAN-NANでは、大分の文化と歴史を伝承していくうえで重要な、さまざまな文書や資料をデジタル化して公開します。そして、

読者からの指摘・追加情報を受けながら逐次、改訂して充実発展を図っていきたいと願っています。情報があれば、ぜひNAN-NAN事務局にお寄せください。

NAN-NANでは、この「浜風のまち」以外にもデジタルブック等をホームページで公開しています。インターネットに接続のうえ下のボタンをクリックすると、ホームページが立ち上がります。まずは、クリック！！！！



別府大学

デジタル版「浜風のまち～佐賀関そぞろ歩き」第11回

編集 大分合同新聞社
初出掲載媒体 大分合同新聞（2009年7月10日～2010年4月28日）

《デジタル版》
2011年6月24日初版発行

編集 大分合同新聞社
制作 別府大学メディア教育・研究センター 地域連携部／川村研究室
発行 NAN-NAN事務局
(〒870-8605 大分市府内町3-9-15 大分合同新聞社 企画調査部内)

© 大分合同新聞社

●デジタル版「浜風のまち～佐賀関そぞろ歩き」について

「浜風のまち」は、大分合同新聞社が2009年7月から翌2010年4月まで、同紙朝刊に掲載した連載記事。今回、デジタルブックとして再構成し、公開する。登場人物の年齢をはじめ文中の記述内容は、新聞連載時のもの。

2011年4月15日

NAN-NAN事務局